２０１６年1月1日　　第５７号

～ 別 院 だ よ り ～

本　願　力

－ 本願寺横浜別院・神奈川教化センター －

発行　真宗大谷派　本願寺横浜別院
〒234-0051
横浜市港南区日野一－十－八
FAXTEL（〇四五）八四一－三四三四
（〇四五）八四一－三四二八
(http//www.yokohama-ootani.com)

光壽無量・動いている別院

輪番　竹部俊恵

新年を迎え、この機会にあらためて、量り無き光の壽に包まれた私であったことを知らされます。読者の皆様、本年もどうぞ本願寺横浜別院をよろしくお導きください。

始めもなければ終わりもない、止まることもなければ速まることもない、この時の流れを、しばし立ち止まり見つめ直し「節目」とする生活の姿は、私たちに多くの発見を与えてくれます。万葉集の編者、大伴家持は「新しき　年の始めの　初春の　今日降る雪のいや重け吉事」と節目に立ったときの素直な思いを詠んでいます。また、高浜虚子は「去年今年　つらぬく棒の　ごときもの」と吟ずれば、当大谷派第二十三代彰如上人（俳号・句仏）は「歳旦の　目出度きものは　念仏かな」「初空や　法身の弥陀に　合掌す」「報恩に　休息なければども　年の朝」の句を作られました。さらに、中村久子には「生かさるる　いのち尊し　けさの春」の句があります。虚子、句仏、久子は、単に節目に立った自身の気持ちを句にしたと言うよりは、節目に立ってあらためて私が何によって私たりえていたのだったかを、知らされています。ですから、真宗大谷派では、元日のお勤めを「初詣」とは言わず「修正会」と言うのもそのためです。

さて、当別院は、今、「神奈川教化センター」としての役割を具体的な形にするための歩みを、「神奈川教化センター設立準備委員会」において、別院門徒、崇敬区域の寺院、門徒の皆さんと協議している最中です。いくつも課題はありますが、基本的に楽しい作業だと感じています。なぜなら、親鸞聖人の教えを、様々な場で、様々な人々が、どう聞いていこうかと話し合っているからです。本願寺横浜別院は「動いている別院だ」と実感しています。先日、湘南組若手寺族の会「湘青会」の皆さんが、当別院で研修会を開かれました。その時に、私に「横浜別院に期待すること」と題しての話の依頼があり、資料作りをしていて、大変なことに気づかされました。私は、いったい日本の仏教の各宗派には、

別院が何箇寺ぐらいあるのかを調べていました。そこで発見したこと、それは浄土真宗以外の宗派には、ほとんど別院はないということです。天台宗も、真言宗も、臨済宗も、曹洞宗も、日蓮宗も、なんと、浄土宗にもほとんど別院はありません。あっても総本山や大本山の支坊としていくつかあるだけです。ところが、浄土真宗、わけても真宗大谷派と浄土真宗本願寺派は、別院を全国や海外に展開しています。その数は、両派とも国内だけでも五十有余になります。これは、いったい何を意味するのか。一度、門徒・寺族一人一人が確認をしておくことで、浄土真宗という教えの大切なことが見えてくると思われます。大まかに私の思いを述べますと、一つは「真宗のお寺は門徒のお寺」ということです。儀式を執行し教化活動を展開し、全ての門徒（この中には当然寺族も含みます）や近隣の方々と、仏法を聴聞する場なのです。つまり、誰もが使える場所ということです。一方、他の宗派のお寺は、僧侶の修行の場所でしょう。ですから、元々、参詣人の席はありません。二つ目は、「真宗のお寺は地域のお寺」ということです。別院は、門徒が集まる場としてのお寺を、さらに、地域の門徒さんやお寺を本山と結ぶために、熱い厚い篤い思いで、全国に建立されたのでしょう。そこでは、地域の寺院・門徒・近隣の方々が、親鸞聖人の教えを聞き合って、教えに出遇い、自分を知らされ、仲間（同朋）に出遇えた喜びを、崇敬区域としていただき、相続してきたのです。もちろん、本願寺横浜別院もそうです。

新年の初めが、そもそも浄土真宗の別院とは、どんなところなのかを知らされた大切な機会となりました。先般、朝日新聞に大谷派根室別院が取り組んでいる「根室じーんプロジェクト」にかかわっている方の記事が載りました。その方は「課題は何か」「楽しいことは何か」「できることは何か」この三つが重なり合うところに解を探せば、傍観者から当事者へ、他人事から自分事へ、息を吹き込まれたかのように、人々が生き生きと動き出すと述べています。これらのことも参考にしながら、ここ横浜の地に念仏者の誕生をと発願された厳如上人のお心に立ち返り「動いている別院・本願寺横浜別院」であり続けましょう。合掌

インド弦楽器シタール演奏会（十一月十五日）開催

シタール演奏会を開催するにあたり、高知県四万十市からアサタ氏をお招きしました。そもそもシタールという楽器自体聞き慣れない楽器かと思います。ギターを大きくしたような楽器で、共鳴胴はヒョウタンのような形をしています。

本堂には、三十名を越える方々が集まり、今か今かと演奏が始まるのを待っていました。アサタ氏は、インドで生活された話を交えながら、ゆっくりと演奏を始めました。その音色はどこか懐かしい、居心地の良い響きでした。本堂の音響効果もあり、本堂の隅々まで響き渡りました。参加者からは、「初めて聞けてよかった。またこんな企画をして欲しい」など、好評でした。今回の内容を踏まえて、さらに次回に繋がるよう企画させていただきます。

別院探訪　四つの別院を参拝（九月十四日）

真宗大谷派（東本願寺）の別院はどれだけの数あるかご存知でしょうか。今現在、日本全国に五十二ヵ寺、海外開教区に三ヵ寺あります。この本願寺横浜別院もその一つに含まれていますが、各別院で建立された由緒や沿革が異なっています。また、四十七の都道府県に均等に建立されているわけでもなく、関東においては本願寺横浜別院と甲府別院の二ヵ寺しかありません。

ところで、東本願寺出版より『別院探訪』という書籍が発刊されています。その内容は余すことなく各別院が写真付きで紹介されており、この本を読むことで、より別院が身近な存在に感じられます。

今回、この本を片手に四つの別院を参拝させていただきました。京都府の伏見別院、大阪府の茨木別院、八尾別院、奈良県の大和大谷別院です。四つの別院とも同じ形の別院ではありません。それぞれの別院が地域に根ざした教化活動を展開していることが伺えました。

もし、どこか旅行に行かれた際に「別院」を思い出してください。札幌、仙台、名古屋、大阪の大都市圏にはもちろんありますし、北陸を中心とした地方都市にも数多く建立されています。駅からの立地条件のよい別院も多々あります。「これまで」と「いま」の別院について本を見比べながら、どうぞご参拝下さい。（列座　家本久和）

【写真】
左上・八尾別院
左下・大和大谷別院
右上・伏見別院
右下・茨木別院

別院門徒の皆様へ（お知らせ）

謹　啓

時下ますますご清祥のことと、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、去る四月二十五日、二十六日に、当別院にて厳修いたしました「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」には、御門徒の皆様の御懇念により圓成することができましたこと、心より深謝申し上げます。

今後は、この御遠忌法要を機縁といたしまして、当別院が首都圏における真宗教化の中心道場としての一翼を担い、さらに発展させるべく「神奈川教化センター」を設立し、教化活動を進めて参ります。

また、皆様から過分なる御懇志を頂戴いたしましたこと、重ねて御礼申し上げます。御懇志につきまして、今もなお御進納いただいている現状であり、大変有難く思うことでございます。

なお、御遠忌募財の受付は、二〇一六年三月三十一日をもちまして終了となりますので、ここに改めてお知らせさせていただきます。

合掌

二〇一六年一月

真宗大谷派　本願寺横浜別院
輪番　竹部　俊恵

二〇一五年度第五回 横浜別院声明儀式研修会のご案内

【日　時】一月十八日（月）
　　午前十時半～午後四時
【講　師】鈴木友好 師（本廟部・堂衆）
【内　容】報恩講－荘厳と次第－
【対　象】寺院・寺族
【会　場】本願寺横浜別院
　（横浜市港南区日野一－十－八）
　※駐車場十六台あります。
【参加費】壱千円（昼食代）
【持ち物】「大谷声明集上」、「真宗の儀式」
　　間衣、輪袈裟、念珠等

毎年本山より講師をお迎えしての声明儀式研修会を開催しております。
ぜひお誘い合わせの上、ご参加下さい。
詳細については個別にご案内いたします。

横浜別院同朋の会にご参加下さい

【日　時】毎月十八日（変更の場合あり）
　　午後一時半～午後三時
【会　場】本願寺横浜別院本堂
【参加費】無料

毎回テーマを参加者と話し合いながら決めて、座談を中心に開催しています。また正信偈同朋奉讃のお勤め練習も行っています。どなた様もお気軽にご参加下さい。

行事予定　～どなたもお参りください～

〈一月〉

定例法話　午後一時半より
九日（土）　横浜組願西寺　佐々木健太郎　師
※一月十八日の同朋の会、二十八日は休みです。
※お正月はご自由にお参り下さい。

〈二月〉

定例法話　午後一時半より
九日（火）　横浜組西教寺　伊藤　大信　師
二十八日（日）　横浜別院輪番　竹部　俊恵　師

同朋の会の集い　午後一時半より
十八日（木）※座談を中心に行ないます。

東京教区報恩講　団体参拝のご案内

【日　時】二〇一六年一月二十八日（木）
【集合時間】九時
【集合場所】本願寺横浜別院
【行き先】東本願寺真宗会館（東京都練馬区谷原）
【会　費】三千円（昼食、交通費込み）
【定　員】十五名（定員になり次第締め切り）
【交通手段】マイクロバス（十五人乗り予定）
【解散時間】十七時（別院での解散となります）
　ご参加お待ちしております。
※ご希望の方は別院までご連絡ください。

編集後記

別院だより「本願力」は五十七号を迎えました。隔月の発行ですので、年間六号ずつ発行しています。数えますと今年で十年目に入りました。思い返すと、十年間変わらずこのスタイルで編集しています。やはり一度スタイル（形）が決まってしまうと、中々変われないというか、変化を嫌ってしまうということがあると思います。

どちらかというと、現代社会は革新（イノベーション）、過去を顧みず多様な変化が常に求められている気がします。その変化についていける時はいいのですが、私自身いずれついていけない時が来ると思います。

私はどちらかというと、保守的な考え方をしますが、伝統という観点からは大変大事なことだと思います。二〇一六年もよろしくお願いします。

（家本）